

阿倍野区人権教育実践交流会まとめ

- ・ 失礼いたします。私は、第6分科会で発表をさせていただきました昭和中学校の校長の山咲でございます。
- ・ 本日は、学期末も近づきたいへんお忙しい中、『阿倍野区人権教育実践交流会』にご参加いただき、誠にありがとうございます。
- ・ 分科会の最後に、第6分科会での発表の『まとめ』ということで、感想も含めお話をさせていただきます。よろしくお願いいたします。
- ・ まずは、本分科会の討議の柱は、特別支援教育の取組を通じて『ちがいを認め合い、共に生きる仲間づくりをするには、どうすればよいか。』ということでした。
- ・ Yさんは、人が大好きで、いつも友だちと一緒にいて、今では、学校行事にも前向きに取り組む姿が見られます。毎朝、2・3人の友だちと、お母さんと一緒に笑顔で登校してきています。
- ・ 発表の中にも、(自立活動を行うために)授業を抽出する時に、本人のやりたくない様子を見た友だちから「いってらっしゃい！」と声をかけられることで、やる気持ちを切り替えられるなどの報告もありましたが、友だちの力はとても大きいと感じられる場面でありました。
- ・ 学校行事などへの参加についても、学年の子どもたちがYさんと一緒に、みんなが楽しく活動できるよう考えることで、「支援する・される」の関係から「共にやる・一緒にする」関係へ変わってきていると感じられます。
- ・ また、周りの子どもたちが驚いたのは、Yさんも他の子どもたちと同じように、「してはいけないこと」をしたら、先生から叱られる・注意されるということを知って、友だちの声かけにも特別扱いではなく、当たり前仲間として関われるよう変化してきたとの報告もありました。

- ・ もちろん、このようになるまでは、様々な課題もあり、ご家族の深い愛情や友だちの支え、先生方のきめ細やかな支援があったことは言うまでもありません。
- ・ 支援は「お手伝い」ではなく、「共に学び合う行為」であり、このような価値観が学校文化として根付くことが人権教育の根本であると考えています。
- ・ 大阪市ではインクルーシブ教育を推進し、障がいの有無に関わらず、互いを認めあい、協働できる共生社会をめざすとあり、「共に学び、共に育ち、共に生きる」のフレーズが合言葉のようになっています。
- ・ 本校の取り組みで、もう一つお伝えしたいことがあります。2学期の文化祭(文化発表会)や体育大会の前にグラウンドに掲げられた大きな横断幕のことです。
- ・ 今年度のこの横断幕には、『個性を力に 感動を共に！』と書かれており、私は、その言葉にとっても感動しました。阪和線に乗ってもらおうとよく見えますので、また機会があれば・・・。
- ・ 大阪市のインクルーシブ教育がめざす「共に学び、共に育ち、共に生きる、そして感動を共に！」が本来のめざすところではないかと今は考えています。
- ・ 違いがあるからこそ、人のつながりが強くなれる学校を、皆さんと共につくっていきたいと思います。以上で本分科会の『まとめ』といたします。